

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 国立民族学博物館研究報告 vol.7-2; 表紙, 目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009245">http://hdl.handle.net/10502/00009245</a>

1982・6 7.2 卷2号

# 国立民族学博物館 研究報告

● ムラという結界——滋賀県高島郡朽木村の事例をめぐって—— 垂水 稔

南インドの右手・左手集団と祭礼騒擾  
——カースト伝承と儀礼を中心に—— 重松伸司

家屋の建築・修復に関する伝統的知識と技術  
——ミクロネシア・エラート環礁の場合—— 杉藤重信



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

7 卷 2 号

1982年6月

## 目 次

ムラという結界 ——滋賀県高島郡朽木村の事例をめぐって——	垂水 稔	197
南インドの右手・左手集団と祭礼騒擾 ——カースト伝承と儀礼を中心に——	重松 伸司	303
家屋の建築・修復に関する伝統的知識と技術 ——ミクロネシア・エラート環礁の場合——	杉藤 重信	349
彙 報		416
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		419
国立民族学博物館研究報告執筆要領		420

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 7 No. 2

June 1982

---

- TARUMI, Minoru      *Mura-kekkai*, Social Enclosure of Village  
Society; an Example from Kutsuki-*mura*,  
Shiga Prefecture ..... 197
- SHIGEMATSU, Shinji      The Right-Hand and The Left-Hand Caste  
Organizations and the Ritual Dispute in  
South India ..... 303
- SUGITO, Shigenobu      Traditional Knowledge and Techniques of  
Building on Elato Atoll, Caroline Islands,  
Micronesia ..... 349

**彙報** (昭和57年1月～  
昭和57年3月)

**人事異動**

(教育職) (配置換)

3月1日 第5研究部助教授 崎山 理  
(広島大学助教授総合科学部)

**シンポジウム**

「日本民族文化の源流の比較研究シンポジウムⅢ—音楽と芸能—」

日時 昭和57年1月20日(水)—23日(土)

場所 国立民族学博物館

摘要 このシンポジウムは特別研究「日本民族文化の源流の比較研究」の一環として開催された。

今回は音楽を中心とする芸能を一つの目やすにして日本および周辺諸民族の文化のさまざまな側面を、いろいろな研究領域から多角的に考察して、問題点を探るために国内・国外の研究者が参加し活発な討論がおこなわれた。

**実行委員会**

**委員長**

藤井 知昭 国立民族学博物館第2研究部教授

**副委員長**

杉本 尚次 国立民族学博物館第4研究部教授

**事務局**

櫻井 哲男 国立民族学博物館第5研究部助手(事務局長)

伊東 一郎 国立民族学博物館第3研究部助手

石森 秀三 国立民族学博物館第4研究部助手

山本 順人 国立民族学博物館第5研究部助手

斉藤 晶三 国立民族学博物館管理部庶務課共同利用係長

**参加者**

◎報告者

藤井 知昭 国立民族学博物館  
大林 太良 東京大学教養学部  
樋口 昭 埼玉大学教育学部  
小島 美子 東京芸術大学音楽学部  
山路 興造 平凡社京都分室  
三隅 治雄 東京国立文化財研究所  
内田るり子 国立音楽大学音楽学部  
石森 秀三 国立民族学博物館  
呂 炳 川 香港中文大学崇基学院  
谷本 一之 北海道教育大学教育学部  
韓 萬 栄 ソウル大学校音楽大学  
金 宅 圭 嶺南大学校文科大学  
周 達 生 国立民族学博物館  
三谷 陽子 相模女子大学学芸学部  
小泉 文夫 東京芸術大学音楽学部  
本田 安次 日本民俗芸能学会

◎討論参加者

伊東 一郎 国立民族学博物館  
岸辺 成雄 帝京大学  
吉川 英史 宮城道雄記念館  
吉川 周平 鹿児島女子大学文学部  
金 両 基 カリフォルニアインターナショナル大学  
郡司 正勝 早稲田大学文学部  
櫻井 哲男 国立民族学博物館  
佐々木高明 国立民族学博物館  
蓮見 治雄 東京外国語大学外国語学部  
姫野 翠 作陽音楽大学音楽学部  
マーム, W. P. ミシガン大学音楽学部  
馬淵卯三郎 大阪教育大学教育学部  
森田 稔 宮城教育大学教育学部  
森永 道夫 帝塚山大学教養学部  
横道萬里雄 東京芸術大学音楽学部

◎オブザーバー

粟倉 宏子 東京芸術大学音楽学部  
井野辺 潔 大阪音楽大学音楽学部  
岩田 慶治 国立民族学博物館  
大谷紀美子 相愛女子大学音楽学部  
大塚 和義 国立民族学博物館

藝 報

鈴木 道子 聖徳学園岐阜教育大学教育学部  
 高橋 昭弘 中京女子大学教育学部  
 滝沢 達子 愛知教育大学教育学部  
 長野 泰彦 国立民族学博物館  
 山本 順人 国立民族学博物館

「日本の芸能」 山路 興造  
 三隅 治雄

15:30 座長：小島 美子

「照葉樹林帯の音楽と芸能」

内田るり子

1月22日（金）

10:00 座長：小泉 文夫

「南方島嶼世界の音楽」 石森 秀三

呂 炳 川

13:00 座長：森田 稔

「北方アジアの音楽」 谷本 一之

15:30 座長：櫻井 哲男

「朝鮮半島の音楽と芸能」 韓 萬 栄

金 宅 圭

1月23日（土）

10:00 座長：岸辺 成雄

「中国の音楽」 周 達 生

三谷 陽子

13:00 座長：藤井 知昭

総括討論 小泉 文夫

本田 安次

日 程

1月20日（水）

14:00 座長：佐々木高明

館長挨拶

14:10 座長：佐々木高明

問題提起 藤井 知昭

14:50

「日本民族文化起源論の問題点」

大林 太良

15:50

館内見学

1月21日（木）

10:00 座長：吉川 英史

「日本の音楽」 樋口 昭

小島 美子

13:00 座長：本田 安次

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
田邊 繁治	助教授（第2研究部）	57. 1. 5	57. 1. 18	タイ
大丸 弘	助教授（第5研究部）	57. 1. 15	57. 3. 17	フランス
佐々木高明	教授（第2研究部）	57. 2. 1	57. 2. 5	中華人民共和国
藤井 知昭	教授（第2研究部）	57. 2. 1	57. 2. 5	中華人民共和国
福井 勝義	助教授（第3研究部）	57. 2. 2	57. 3. 27	スーダン, エチオピア, ケニア, ニジェール, ナイジェリア
中牧 弘允	助手（第1研究部）	57. 2. 28	57. 3. 19	インド, スリランカ, タイ
櫻井 哲男	助手（第5研究部）	57. 3. 1	58. 2. 28	大韓民国
梅棹 忠夫	館長	57. 3. 16	57. 3. 20	大韓民国
佐々木高明	教授（第2研究部）	57. 3. 16	57. 3. 20	大韓民国
松澤 員子	助教授（第2研究部）	57. 3. 16	57. 3. 20	大韓民国
杉田 繁治	助教授（第5研究部）	57. 3. 16	57. 3. 20	大韓民国

来館者抄

1月29日 高松 圭吉（日本観光文化研究所長）  
 神崎 宣武（同 主任研究員）

2月8日 西村 豪（チリ共和国, チリ大学教授）  
 福永 光司（京都大学人文科学研究所長）

- 上山 春平 (同 教授)
- 2月15日 Michael Spock (米国, ボストン子供博物館長)
- 山本 利雄(大阪芸術大学教授)
- 3月1日 西ドイツ情報視察団
- Mrs. Johanna GREWEN (Director, Bonn Branch Office, Karlsruhe Information Center)
- Mr. Norbert HENRICH (Scientific Managing Director, GID : Gesellschaft für Information und Dokumentation)
- Mr. Peter Krause (Director, I & D Policy Coordination Division, BMFT : Federal Ministry of Research and Development)
- Mr. Dieter MÖNCH (Director, International Office, GID)
- Mr. Gerhard SCHLITT (Director, TIB : Technische Informationsbibliothek)
- Mr. Klaus SOLVEEN (Director, Industry and Economy related I & D Policy Division, BMWi: Federal Ministry of Economics)
- Mr. Ulrich WATTENBERG (Director, GID Tokyo Office)
- Mr. Harald ZIMMERMANN (Director, Institute for Information Science, Saarbrücken University)
- 岸田 晩節(大阪市立大学教授文学部)
- 15日 Rosa CARTER (米国, ゲアム大学長)
- 18日 David N. F. DUNBAR (オーストラリア連邦, オーストラリア全大学評議会議長)
- 大洋州研究者一行
- Colin Campbell AIKMAN (ニュージーランド, ニュージーランド国際問題研究所長)
- Ahmed ALI (フィジー, 南太平洋大学社会行政研究所長)
- Dirk BALLENDORF (米国, ゲアム大学ミクロネシア研究センター所長)
- David HEGARTY (パプア・ニューギニア, パプア・ニューギニア大学政治学科主任)
- Diana Rosemary HOWLETT (豪州, 豪州国立大学主任教授文学部地理学科)
- Gregory Duncan McCOLL (豪州, ニューサウスウェールズ大学準教授経済学部)
- 23日 ALFIAN (インドネシア共和国, 国立文化研究所長)
- 29日 Yusuf HASAN (スーダン民主共和国, カルツーム大学アフリカ・アジア研究所長)

## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1  
国立民族学博物館内  
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]  
[Leach 1961: 123]  
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
  - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
  - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題(タイトル)、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.  
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,  
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthro-  
pology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The Uni-  
versity of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 7卷2号

監 修  
梅 棹 忠 夫  
編集委員長  
伊 藤 幹 治  
編 集 委 員  
石 森 秀 三  
煎 本 孝  
大 森 康 宏  
小 川 了  
垂 水 稔  
長 野 泰 彦  
松 原 正 毅  
守 屋 毅  
山 本 紀 夫

---

昭和57年9月20日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 7卷2号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園10-1  
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入  
TEL 075 (441) 3155 (代表)

---

# Bulletin of the National Museum of Ethnology

vol.7 no.2

June 1982

TARUMI, Minoru

*Mura-kekkai*, Social Enclosure of Village Society; an Example from Kutsuki-*mura*, Shiga Prefecture

SHIGEMATSU, Shinji

The Right-Hand and The Left-Hand Caste Organizations and the Ritual Dispute in South India

SUGITO, Shigenobu

Traditional Knowledge and Techniques of Building on Elato Atoll, Caroline Islands, Micronesia



National Museum  
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X